

《課題名》

食道胃接合部癌に対する手術症例の検討

《対象者》

当院消化器外科において 2008 年 4 月 1 日から食道胃接合部癌に対し手術加療を行った患者さん

研究協力のお願い

当科では「食道胃接合部癌に対する手術症例の臨床病理学的検討」という研究を行います。この研究は、当院で 2008 年 4 月から食道胃接合部癌に対し手術を施行した患者さんの臨床情報を調査する研究で、研究目的や研究方法は以下の通りです。直接のご同意はいただかず、この掲示などによるお知らせをもってご同意を頂いたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の主旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。この研究へのご参加を希望されない場合、途中からご参加取りやめを希望される場合、また、研究に関するご質問は下記の問い合わせ先へご連絡下さい。また希望されれば、計画書等研究に関連する資料を個人情報保護と研究に支障がない範囲に限り閲覧することができます。

(1) 研究の概要について

研究課題名：食道胃接合部癌に対する手術症例の検討

研究期間： 承認日～2028 年 7 月 31 日

実施責任者： 滋賀医科大学 外科学講座 講師 貝田 佐知子

(2) 研究の意義、目的について

《研究の意義、目的》

本邦では近年、食生活の欧米化や肥満などの影響により、バレット食道やそれに起因するバレット食道癌など、食道胃接合部領域に発生する食道胃接合部癌の頻度は増加傾向です。食道胃接合部癌の分類には国際的に Siewert 分類が使用されていますが、日本では胃癌取扱い規約第 14 版、食道癌取扱い規約第 10 版での取り決めて、「病理組織型にかかわらず、食道胃接合部の上下 2cm 以内に癌腫の中心をもつもの」と定義されています。このように組織型もさることながら、胸部と腹部の境界に存在する腫瘍である特性があることから、治療方針は未だ一定のコンセンサスを得られていないのが現状です。

当院での過去の食道胃接合部症例を過去にさかのぼり、多岐にわたる治療方針と予後との関連性を後方視的に検討することで、今後の臨床における治療方針の指標となる可能性があります。

(3) 研究の方法について

《研究の方法》

既存の検査結果を用いた観察研究です。当院で 2008 年 4 月から治療をおこなった患者さんの中で、食道胃接合部癌で手術を行った方の臨床経過、検査値を評価します。また、電子カルテより患者さんの年齢、性別、身長、体重、採血結果、ドレン排液の成分結果、術後合併症発症の有無と種類、といった情報を利用します。

(4) 予測される結果（利益・不利益）について

参加頂いた場合の利益・不利益はありません。

(5) 個人情報保護について

研究にあたっては、個人情報を直接同定できる情報は使用されません。また、研究発表時にも個人情報は使用されません。

(6) 研究成果の公表について

この研究成果は学会発表、学術雑誌およびデータベースなどで公表します。

(7)問い合わせ等の連絡先

滋賀医科大学 外科学講座 貝田 佐知子

住所：520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町

電話番号： 077-548-2238

メールアドレス： hqsurge1@belle.shiga-med.ac.jp